

都道府県別賞一等

人生の安心剤

福井県 勝山市立勝山南部中学校 三学年

金本 昊大

私の母は、家族の中心であり、いつも明るい笑顔で私たち家族を支えてくれる存在だ。毎日、朝晩ごはんを作ってくれたり、仕事に疲れている時も私の話を聞いてくれる。家族の太陽のような人だ。

そんな私の母はよく生命保険について話す。「いつ病気になるかわからないし、いざとなった時に安心だからね。」と言う。僕はあまり生命保険は何の為にあるのかも浅い知識だけで深くは知らなかった。

五年前の一月、私が小学三年生の頃、今でも忘れられない衝撃的な出来事があった日がある。その日は、私はいつものように学校から帰宅した。この時間帯はいつも父や母は仕事があるので家にはいない。だが、その日は違った。ドアを開けると暗い様子の母と父が椅子に座っていた。「ちよつと話があるからこっちにきて。」と母が言う。私は少し嫌な気がした。しかし私は『なにも悪いことはしてないし、ドッキリとかかなあ。』と軽い気持ちでいた。「私ガンだつて。」ポツリと母がつぶやいた。全身に衝撃が走り、帰宅して間もない私の頭では理解が追い付かず、魂が抜けたように座り込んでしまった。母は大粒の涙を浮かべ、暗い表情をしていた。母は父と病院に行き検査を受けたところ、ガンと診断されたとのことであった。

気を確かにして母に質問する。「ガンは治るの？入院とか手術するの？」と聞くと、母から「来週から入院することになるみたい。」と言われた。そして数日が経ち、入院することになった。どうやら手術もしないといけないらしい。私は『入院、手術などの費用はどうするのか。』と疑問に思い、父や母に聞いてみた。そうすると父が「生命保険に入ってるから、手術費や入院費の支払いは大丈夫や。」と説明してくれた。

母の手術が無事成功し、手術からわずか十日ほどで退院した。私は、母がいかに家族にとって大切な存在かを再確認することができた。それと同時に生命保険の大切さを学んだ。私が心配していた費用のことも、母が生命保険に入っていたおかげで、支払いに困ることがなく、安心することができた。人生はいつなにが起こるか予測不能である。しかし、生命保険に加入しておけば、万が一の時の金銭面への不安は解消され「人生の安心剤」となる。今後、自身が社会人となる将来に向けて、生命保険についての知識を広めていき、どうするか、どうしたらよいのか、方法や手段を選択できる大人になりたい。